

## 平成30年度第3回理事会議事録

1. 日時：平成30年9月29日（土） 13：27～17：05

2. 場所：岸記念体育会館5階 504、505会議室

3. 出席者：

理事：総数27名中 松丸喜一郎会長 藤井優副会長 田村恒彦副会長兼専務理事  
岸高清常務理事 袴田登喜造常務理事 溝部政司常務理事 永谷喜一郎常務理事  
大野明敏常務理事 鍵山博常務理事 横山幸子常務理事  
香西俊輔理事 田中敏夫理事 木場良平理事 三木容子理事 佐橋朋木理事  
源洋子理事 成山悟史理事 田中僚一郎理事 高橋信吾理事 田中辰美理事  
以上出席20名

監事：総数2名中 石崎和男 阿部栄一郎 以上出席2名

田村専務が13時27分に理事20名出席で成立するとの宣言をした。

4. 議事録署名人：松丸喜一郎、藤井優、田村恒彦、石崎和男、阿部栄一郎

5. 松丸会長挨拶

松丸会長が、選手、指導者、団体の不祥事が相次いでいる。日本人の精神性が変わってきている部分や社会の変化があろう。公益法人としては社会の価値観に合致して変わるべきところは変わっていくべきである。不祥事が続く中で国がスポーツ団体に対する管理を強化しようとの動きがあるが、我々は、先輩方が苦勞して築いてきた自立性は確保して、コンプライアンスやインテグリティの厳守を確立していくことが重要だと認識しているとの挨拶をした。

### <審議事項>

1. 東京2020五輪代表選手選考要綱について

田村選手強化委員長より資料1のとおり説明があった。香西理事より開催国QP返上になる場合でもQP獲得したとの扱いかとの質問があり、田村委員長がQP獲得者との扱いになると答えた。ほかに質疑はなく、議長が諮ったところ全員異議なく、東京2020五輪代表選手選考要綱について原案どおり承認した。

2. H30年度NT選手選考基準及び海外派遣要綱一部変更について

田村選手強化委員長より資料2のとおり説明があった。とくに質疑はなく、議長が諮ったところ全員異議なく、H30年度NT選手選考基準及び海外派遣要綱一部変更について原案どおり承認した。

3. 日障連QP獲得支援事業の支援内容一部変更について

田中辰美パラスポーツ部会長より資料3のとおり説明があった。岸高事務局長より、6月理事会でパラのQP獲得支援を200万円とすることで決めている趣旨からして、変更案のシャトル大会での8位以内に支援を限定するというのではなく上限200万円の範囲の中での配分等は日障連におまかせすることで良いのではないかと発言があった。議長が提案について諮ったところ全員異議なく、日障連QP獲得支援について本年度は上限200万円とし、配分については日障連にまかせることを承認した。

4. 第12期エリートアカデミー生のJOCに対する推薦者決定について

田村選手強化委員長より資料4のとおり説明があった。とくに質疑はなく、議長が諮ったところ全員異議なく、第12期エリートアカデミー生被推薦者を佐々木一帆とする事を承認した。

5. 第3回ユースオリンピック競技大会派遣について

大野ジュニア育成委員長より資料5のとおり説明があった。とくに質疑はなく、議長が諮ったところ全員異議なく、第3回ユースオリンピック競技大会派遣について高木葵選手、毛塚明善監督とする原案を承認した。

6. 第11回アジアエアガン大会派遣について

大野ジュニア育成委員長より資料6のとおり説明があった。

これに関連して田村選手強化委員長よりマティアス・スーチャックライフルコーチ（ハンガリー）、ゴラン・マキシモビッチライフルコーチ（セルビア）、さらにピストルジュニアコーチとしてエグルト・エリックコーチ（フランス）を採用する件について、とりあえず2019年3月までは試用期間的な考え方で、JOC等の強化費から支出できる謝金で報酬を支払うとの報告があった。とくに質疑はなく、議長が諮ったところ全員異議なく、第11回アジアエアガン選手権大会派遣について役員4名、選手13名の原案を承認した。

7. ピストルライフル国内適用規程（競技時間）の一部改訂について

溝部競技運営委員長より資料7のとおり説明があった。鍵山常務より雑な射撃にならないようにAPにそのまま移行できるような時間数にしておくべきだとの意見があった。成山理事より現場のピストルコーチの意見は賛否両論あり短縮には若干反対の方が多い。との意見があった。

議長がさらにピストルの専門的なコーチの意見も聞いた上での継続審議を提案したところ、全員異議なく継続審議となった。

8. NRAJ認定コーチ制度見直しについて

成山指導者育成部会長より資料8のとおり説明があった。田村副会長よりカリキュラムや運営内容について要綱はどうするのか質問があり、成山部会長が来年度から施行できるようこれから詰めること説明があった。そのほか質疑はなく、議長が諮ったところ全員異議なく、NRAJ認定コーチ制度見直しについて原案どおり承認した。

9. 公認審判員の承認について

溝部競技運営委員長より資料9のとおり説明があった。とくに質疑はなく、議長が諮ったところ全員異議なく、4名の地方公認審判、4名の本部公認審判を承認した。

10. 記録の公認について

源記録部会長より資料10のとおり説明があった。とくに質疑はなく、議長が諮ったところ全員異議なく、22件の記録について原案どおり承認した。

11. 銃器の公認について

香西認定部会長より資料11のとおり説明があった。とくに質疑はなく、議長が諮ったところ全員異議なく、エアピストルのワルサーLP500について原案どおり承認した。

12. 未公認射場での段級審査等事例および射撃場の公認について

溝部競技運営委員長より資料12のとおり説明があった。香西理事より今後の対応をどうするのか、さらに射撃場のチェックリストの調査実施者欄にチェックを受ける側である競技委員長などが入っているのは見直すべきだとの意見があった。それに対し松丸議長が、今後の対応

策については後の議題で説明があると発言した。そのほか特に質疑はなく、議長が諮ったところ全員異議なく、未公認射場5ヶ所での手続き済み段級審査を有効とする等の対応および京都八瀬射撃場（ライフル、空気銃）、京都府立園部高校射撃場（空気銃）、岐阜市民総合体育館3階射撃場（空気銃）の4件の公認について、さらにBR射場での臨時射場適用および公認現地調査方法、チェックリスト書式について原案どおり承認した。

13. 拠点射撃場整備案件（広島）の承認について

岸高事務局長より資料13のとおり説明があった。とくに質疑はなく、議長が諮ったところ全員異議なく、広島県つつがライフル射撃場整備への整備費補助について原案どおり承認した。

14. 合宿招致国際競技時の銃器等持込対応ガイドラインについて

岸高事務局長より資料14のとおり説明があった。香西理事よりチームへの指導など県ラではなく誘致自治体の役割にすべきではないか、警察の指導があるのか。との意見があり、岸高事務局長が、このあたりは警察庁と詰めると日ラが責任を持ってやるようにとの方向になりがちであるとの発言があった。議長が、本件は特に県や県ラの役割分担についてさらに検討をして12月に継続審議ということでどうかと提案し、全員異議なく継続審議となった。

<報告事項>

1. 委員会報告

1) 総務委員会

・競技会参加実績把握と適格証明制度改革方針案について

横山総務委員長より別添資料1のとおり競技者適格証明制度についてその調査を毎年の会員資格継続手続き時に実施する一元化をはかる、適格証明発行手続きの無償化をはかる、この推薦銃状況把握体制を根拠として最終的には技能講習の対象から日ラ会員を除外するよう警察庁と協議するとの方針について、報告があった。

・自民党スポーツ射撃を考える議連への要望について

田村専務理事より資料15のとおり報告があった。

2) 推薦委員会

・7月8月推薦委員会審査結果について

袴田推薦委員長より資料16のとおり報告があった。

3) 国体委員会

報告に先立ち茨城県ラ来栖会長よりリハ大会開催について出役役員をはじめお世話になった多くの皆様に対してお礼の挨拶があった。

・県側負担となる中央派遣役員前泊、後泊基準案について

鍵山国体委員長より資料17のとおり国体、リハ大会の中央派遣役員の前泊、後泊を認める場合について基準を明確化したとの報告があった。

・ブロック予選結果と本国体出場者資格について

鍵山国体委員長より資料18のとおりAPでブロック予選通過者が本国体ではCPに出場しAPは当該県の他の選手が出場する例は福井国体から可、APでブロック予選敗退者が本国体ではCPに出場する例は茨城国体から可とするとの報告があった。

4) 選手強化委員会

・第18回アジア競技大会成績報告

田村選手強化委員長より資料 19 のとおり報告があった。  
・第 52 回世界射撃選手権チャンピオン大会成績報告  
田村選手強化委員長より資料 19-2 のとおり報告があった。

5) ジュニア育成委員会

・第 3 回東アジアユースエアガン大会成績報告  
大野ジュニア育成委員長より資料 20 のとおり報告があった。

6) 競技運営委員会

・競技会実施報告ならびに大会格付けの改定方針について  
溝部競技運営委員長より資料 21 のとおり報告があった。その中で競技会報告書について最新の書式以外の使用を禁止し、主管、開催日、出役役員名を明記して 2 週間以内に提出させるなどの改定案の報告があった。さらに競技会格付規程について日ラ主催大会の定義として G2 以上に限定し、G3+は日ラ後援、G3 以下は日ラ公認大会とする、現在 G3 の中で規模役員配置を確認して G4 が相当の大会は G4 にするなどの改定方針を報告し、12 月の理事会で審議して決定するとの報告があった。  
また、岸高事務局長より公認標的の使用状況について G4 などの大会について来年度監査的な抜き取りでの大会使用標的の提出をお願いする予定であるとの報告があった。

・2019 年度日ラ事業計画案について  
佐橋競技企画部長より 2019 年度事業計画案について別添資料 2 のとおり報告があった。

・宮城県射撃場の変更について  
香西認定部長より資料 22 のとおり宮城県ライフル射撃場 50m 射場、10m 射場にそれぞれ 7 的、26 的の電子標的設置にともなう変更があり公認条件の適合確認をしたとの報告があった。

7) 2020 東京オリパラ準備運営本部

・NTO 五輪施設状況ほか  
田村本部長より五輪会場射撃場建設について 10 月に業者が決まる。2020 年 3 月に完成予定。NTO 候補者について組織委員会と役職数 34 で交代要員含め約 70 名、SSV ボランティアが 120 から 150 名の予定で組織委員会と調整を進めている。NTO 候補者を対象に 11 月に B コースライセンス講習会、来年 E S T 講習会をやる予定との報告があった。  
岸高事務局長より、五輪のチケットの協会割り当てについては、定価販売を前提に割り当て可能枠について 11 月ごろ JOC から説明があり、それに基づいて協会から購入希望を申し込む予定であるが、これは協会と加盟団体の役員用ということで一般会員や会員の家族までの分ということにはならない見込みである。との報告があった。

8) 国際委員会

藤井国際委員長より本年 11 月の ISSF 総会で五輪種目維持や電子標的導入で大きな功績があったバスケス会長が退任し、後任の新会長の選挙があるので注目していただきたいとの報告があった。

2. 会務報告

・ISSF ルール運営ガイドライン翻訳について  
香西理事より、五輪準備のため ISSF のルール運用ガイドラインの翻訳と配布が必要で作

業をお願いしたいとの発言があった。溝部競技運営委員長より 2 月には配布できるようにしたいとの回答があった。

・興東電子チームピストルの PC でのファイナル運営システムについて

大野常務より、デジタルピストル大会システムは既存チームシステムでの表示が前提となっているように見えるが、本来 PC ベースで大会運営がきちんとできるようにするのが普及に資するものであり、PC で大会運営できるように興東電子への指導が必要ではないか。との意見があった。松丸会長が、競技運営委員会と選定チームの技術に詳しい方を集めて興東電子を呼んで PC によるファイナルの運営の状況について確認することとしようとの発言があった。

17 時 05 分に松丸議長が閉会を宣言した。

平成 30 年 10 月 10 日

議事録署名人

議長、代表理事（会長）松丸喜一郎

松丸喜一郎



代表理事

藤井優

藤井優



代表理事

田村恒彦

田村恒彦



監事

石崎和男

石崎和男



監事

阿部栄一郎

阿部栄一郎

